

# 鯨 研 通 信

第 331 号

1979年12月

財団法人 鯨類研究所 〒135 東京都江東区越中島1丁目3番1号 電話 東京(642) 2888 (代表)  
日本捕鯨協会



## 北太平洋低緯度海域で捕獲した 2, 3のイルカについて

南西海区水産研究所 正 木 康 昭  
鯨類研究所 加 藤 秀 弘

### ま え が き

昭和53年度に水産庁が実施した北太平洋低緯度海域における鯨類目視標識調査結果については既に本通信第324号と第330号において報告した。上記の調査航海中、ハンドウイルカ1頭、ハシナギイルカ2頭そしてマダライルカ4頭の計7頭を捕獲した。北太平洋南西海域からのイルカの標本は決して多いとはいえない。このように、ぼつりぼつりと集まる標本は、往々にして、限られた関係者の目にしか触れることなく時間的経過と共に標本も資料も消散してしまう場合が多い。これを防ぐ1つの方法としては、出来るだけ早くその概要なりとも報告しておくことであろうと考え、とりあえず資料の公表を主体に報告する。

### —ハシナギイルカ—

#### [1] 捕獲状況

第1表に捕獲した7頭のイルカの資料を示した。ハシナギイルカは標本番号3と6の個体である。前者は1978年11月5日、ニューギニアの北にあるマス島マス島の北側約60マイル地点(01°24'S, 147°22'E)において1群30頭の群から散弾と突棒を併用して捕獲した。捕獲地点の表面水温は29.4°Cであった。

標本番号6の個体は11月7日、ハレネ州からSE方向の約60マイル地点(04°27'N, 149°54'E)において1群100頭の群から捕獲した。捕獲地点の表面水温は29.4°Cであった。この群から標本番号7のマダライルカが同時に捕獲された(本通信第330号にて報告した群番号17はハシナギイルカの群として報告したが、この100頭の中には相当数のマダライルカが混在して

いたと推察される。謹んでお詫び申し上げますと共に訂正させていただきます)(第1図)。

#### [2] 体 色

標本番号3と6の個体は共に雄であり、体長は前者が186.0cm、後者が157.0cmであった。第2図と3図に各々の頭部と体側面の体色と体形を示した。基本的な体色は本通信第320号で記載したものと同じである。しかし、第320号で示した体色はPerrin(1973)が区分したHawaiian系群のように体側面において体色が3つの色調に区分されないことを報告したが、今回のこの2頭のハシナギイルカはいづれも体中央部以後は前報の体色と同様に明瞭な2つの色調で区分されるが、体中央部から胸鰭にかけてはHawaiian系群のように3つの色調に区分されている。更に、体下面の白色部分において、標本番号6の個体は正木(1978)が報告したように斑点は認められなかったが(第3図)、標本番号3の個体は体下面全体に小さな灰色の斑点が存在する点において異なる(第2図)。他のStenella属に認められているごとく、ハシナギイルカの体色も発育段階で変化すると考えられるので、より多くの標本の採集に基づいて検討する必要がある。

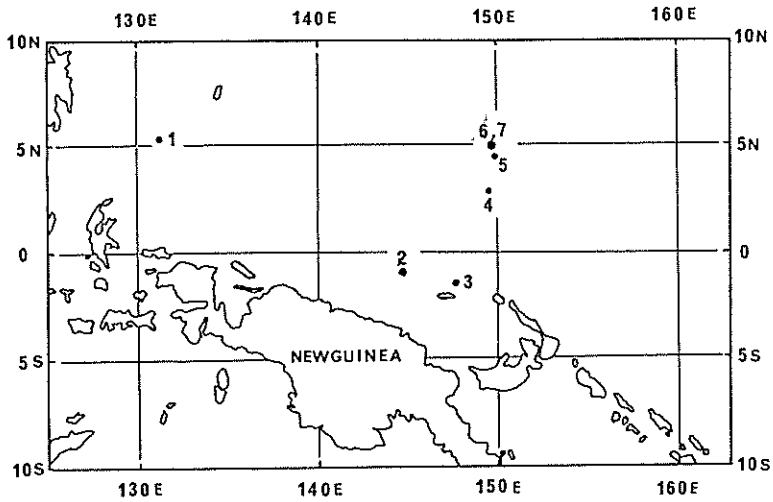
#### [3] 外部形態

本報告の第1図と本通信第320号の第1図に示した各々の捕獲位置からも判るように、今回の標本はマーシャル諸島水域とカロリン諸島水域で捕獲された位置の大略中間に位置する海域で捕獲された。そして、体色の項で述べたように、標本番号3の個体については若干の疑問が残るが、これら4頭を1つのグループとして他の系群の外部計測値と比較した。即ち、今回の標本は2頭とも雄であるので、本通信第320号の第2

第1表 捕獲したイルカの資料

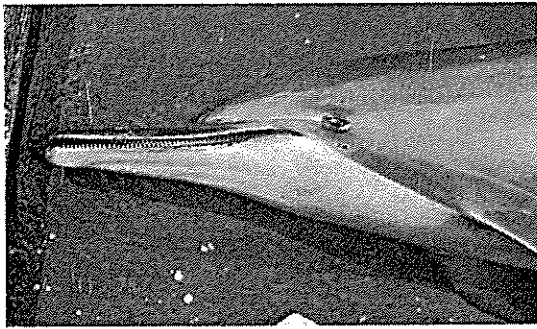
標本番号	1	2	3	4	5	6	7	
捕獲年月日	27 Oct. 1978	3 Nov. 1978	5 Nov. 1978	6 Nov. 1978	7 Nov. 1978	7 Nov. 1978	7 Nov. 1978	
捕獲位置	05°14'N, 131°03'E	01°00'S, 144°30'E	01°24'S, 147°22'E	02°59'N, 149°24'E	04°27'N, 149°54'E	04°48'N, 149°45'E	04°48'N, 149°45'E	
性別	♀	♀	♂	♂	♀	♂	♂	
体長 (cm)	190.5	252.0	186.0	185.0	175.0	157.0	152.0	
捕獲方法*	A	B	A	A	A	A	A	
鯨種	マダライルカ	ハンドウイルカ	ハンナガイルカ	マダライルカ	マダライルカ	ハンナガイルカ	マダライルカ	
群構成数	1群50頭	2群25頭	1群30頭	1群30頭	1群20頭	1群100頭	1群100頭	
表面水温 (°C)	30.5	29.7	29.4	29.5	29.3	29.4	29.4	
遊泳方向	160度	100度	180度	270度	225度	45度	45度	
胃内容物	種類	イカ類口器	—	魚・イカ	エビ(1cm位), イカ 口器・魚	魚・イカ・エビ類	耳石・イカの中・ 魚類の骨	耳石・イカの中・ 魚類の骨
	量	0—25%	0	25—50%	25—50%	50—75%	25—50%	25—50%
	鮮度	—	—	25—50%	25—50%	25—50%	—	—
脂皮の厚さ (mm)	4.5	8.0	6.0	7.0	5.0	8.0	5.0	
外部寄生々物	{尾羽先端に有莖フジ ツボ, 口角にシラミ	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
内部寄生々物	—	なし	胃中に線虫	胃中に線虫	なし	胃中に線虫	幽門部に線虫	
乳腺(長さ×幅×厚さ)	22.5×4.0×1.3cm	33.0×7.0×0.8cm	—	—	19.5×3.3×0.4cm	—	—	
乳腺の状態(肉眼観察)	乳分泌中	成熟・休止・黄色 液体少し	—	—	成熟休止(赤色)?	—	—	
胎児	無	無	—	—	無	—	—	
黄白体数	0—1, 0—1	流失	—	—	0—0, 0—0	—	—	
睾丸 (長さ×幅×厚さ)	{右 左	— —	12.5×3.3×1.7cm 12.5×3.0×1.6cm	25.5×5.0×3.0cm <sup>***</sup> 23.0×4.8×4.0cm	— —	9.9×0.6×0.5cm 8.0×0.8×0.6cm	6.9×1.1×0.7cm 6.5×1.2×0.8cm	
	歯数	{(上顎)左・右 (下顎)左・右	37(5)・37(3) 38(0)・38(1)	21(2)・21(2) 19(1)・19(0)	42(7)・41(7) 45(0)・44(0)	36(6)・37(5) 38(0)・38(0)	34(5)・37(4) 37(0)・37(0)	50(6)・53(7) 55(0)・52(0)
歯槽数	{(上顎)左・右 (下顎)左・右	41・41 40+α・40+α	24・24 21・21	51・51 49・48	42・44 40・42	40・42 40・40	60+α・57+α 57+α・57+α	40・40 39・40
	脊椎骨数	76	60	73	75	76	74	74
肋骨数	{右 左	15 15	15 15	14 13	15 15	14 14	14 13	15 14
	頸脊椎の癒着状態	第1と第2頸脊が癒着	左同	左同	左同	左同	左同	左同

\* : A = 散弾銃と突棒を併用, B = 突棒, \*\* = ( ) はソケットの数, \*\*\* = 250グラム (睾丸重量)

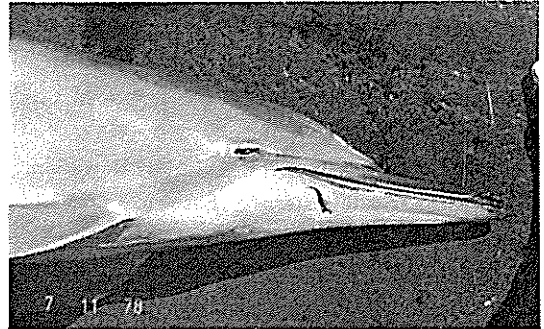


第1図 捕獲位置

- 1, 4, 5, 7: マダライルカ (*Stenella frontalis*)  
 3, 6: ハシナギイルカ (*Stenella longirostris*)  
 2: ハンドウイルカ (*Tursiops gilli*)



第2図 標本番号3 ハシナギイルカ 186.0cm 雄



第3図 標本番号6 ハシナギイルカ 157.0cm 雄

表の中, Marshall & Caroline の雌の値だけを変更するだけで検討が可能である。それらの新しい値は以下の通りである。

吻端から目まで (18.9%), 吻長 (9.4%), 吻端から口角まで (16.6%), 吻端から噴気孔まで (18.7%), 吻端から胸鰭底前方まで (25.7%), 吻端から背鰭突起端まで (58.4%), 吻端から臍まで (49.2%), 胸鰭底後方から胸鰭先端まで (11.2%), 尾鰭幅 (21.7%)。

更に, 今回は腋の下を通る胴囲りを比較した (第2

表)。

外部形態としては, 本通信第320号で述べたごとく, 今回の資料を加えても, 南西太平洋のハシナギイルカは吻長と背鰭より前方の各部位長の体長に対する割合は大きく, 即ち, 体前半が他の系統群のものよりも長いという同じ特徴をもたらした。また, 胴囲りの資料からは, 南西太平洋のハシナギイルカは Costarican のものよりも胴囲りは太いが, Hawaiian や Whitebelly 型よりも細く, スマートな体形であると

第2表 ハシナガイルカの腋の下を通る胴囲りの計測値

	南西太平洋	Hawaiian*	Whitebelly*	Eastern*	Southwestern**	Costa-Rican*
体長	雄 1570—1860	1789—1854	1643—1840	1628—1818	1700—1860	1814—2164
	雌 1798	1720—2007	1625—1781	1610—1786	1750—1870	1963—2033
雄	A 700—790	857	752—818	679—800	780—900	692—719
	(B) (42.5—44.6)	(46.2—47.9)	(40.9—49.8)	(37.3—49.1)	(41.9—52.9)	(32.0—39.6)
雌	A 700	787—813	755—868	679—794	800—870	735—771
	(B) (38.9)	(39.2—47.3)	(42.4—53.4)	(38.0—49.3)	(42.8—49.7)	(36.2—39.3)

A: 実測値 (mm), (B): 体長に対する割合 (%), 体長の単位はmm, \*: Perrin (1975), \*\*: Perrin (1978)

いえる。

[4] 頭骨の形態

Perrin (1975, 78) の Hawaiian, Whitebelly, Eastern, Costa-Rican, Southwestern 各系統群と水江等 (1964) の九州西方海域産 (Götö) のハシナガイルカの頭骨の各計測値と正木 (1978) のカロリン諸島水域で捕獲したハシナガイルカ (1頭) に今回捕獲したもの (2頭) を合せた3頭のそれとを比較すると以下のような特徴が認められた (付表2)。

(A) 南西太平洋のハシナガイルカの頭骨全長①, 吻長②, 吻端より外鼻孔まで③, 吻端より内鼻孔まで④, 上顎歯線長⑤, 下顎骨窩の長さ⑥は Hawaiian, Costa-Rican, Southwestern のものよりも短く, Eastern, Götö そして Whitebelly よりも長い。

(B) 眼窩先方部における頭骨最大幅の値は Hawaiian, Costa-Rican, Southwestern と Eastern, Götö そして Whitebelly の値の間に今回の値は位置するが, 眼窩後方部における頭骨幅⑩, 上部眼窩間の最小幅⑪, 頭頂骨側頭鱗の頬骨突起間の最大幅⑫, そして外鼻孔の幅⑬は最小の値を示しているが, 頭頂部における頭骨の最大幅⑭は最高値を示している。

(C) 吻基底幅③と吻中央部における前顎骨の幅⑮は最も狭く, ④⑤⑦の部位における吻幅は Whitebelly, Southwestern そして Hawaiian よりも狭く, Costa-Rican や Eastern に近い値を示している。測定部位⑮の前顎骨の幅は Costa-Rican, Hawaiian そして Southwestern より狭く, Eastern と Whitebelly に近い。

(D) 測定部位⑩と⑪の側頭骨窩長と幅は各々最小値を示しており, Hawaiian や Southwestern ではほぼ円形に近い楕円形であるのに対して北太平洋南西海域産のものは楕円形である。

(E) 内鼻孔の幅⑯は Hawaiian や Costa-Rican よりも狭く, Eastern と Whitebelly の間の幅を示している。

(F) 翼状突起⑰は最も短い。

(G) 下顎歯線長⑱と下顎骨長⑲は Hawaiian と Costa-Rican に次いで長い。

(H) 下顎長の測定軸に直角な下顎骨の鳥喙突起部における高さ⑳は最も高い。

これらの特徴から, 北太平洋南西海域産ハシナガイルカは Perrin (1975) の Eastern Pacific と Whitebelly の系統群に近い頭骨であるといえよう。

[5] その他の形質

北太平洋南西海域産ハシナガイルカの歯槽数は第1表に示したように  $51 \sim 60 + \alpha / 48 \sim 57 + \alpha$  である。Perrin (1975, '78) と水江等 (1964) はそれぞれ  $46 \sim 61 / 44 \sim 59$ ,  $50 \sim 52 / 49 \sim 50$  の歯槽数を報告しており, 今回の結果は Perrin (1975, '78) の報告している値の範囲内に入っているが, その中でも Costa-Rican ( $50 \sim 59 / 51 \sim 59$ ) と Eastern ( $46 \sim 61 / 45 \sim 56$ ) の値に近い。

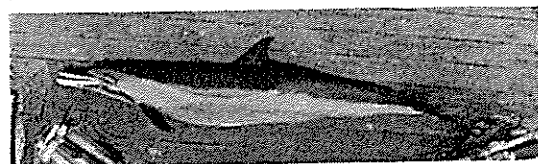
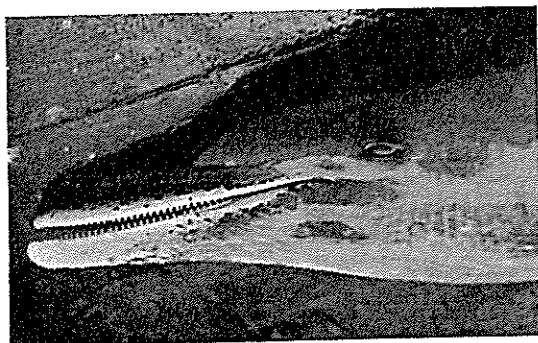
北太平洋南西海域産の脊椎骨数は72, 73そして74個であり, Hawaiian (70—72), Götö (71—72) よりも多く, Whitebelly (72—76), Eastern (73—76) そして Southwestern (72—77) の範囲内に入っている。

以上のことから, 本通信第320号でも述べたごとく, 体色と外部形態からみると Hawaiian 系群に近いが, 頭骨の形態からは, Hawaiian 系群とは全く異なり Eastern あるいは Whitebelly に近いことを示している。従って, Hawaiian 系群と Eastern あるいは Whitebelly 系群の両方の特徴を有する亜種が北太平洋の南西海域に分布していると考えられる。

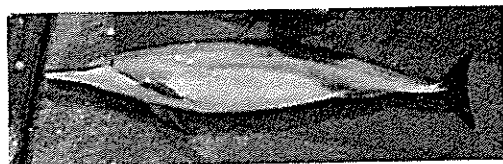
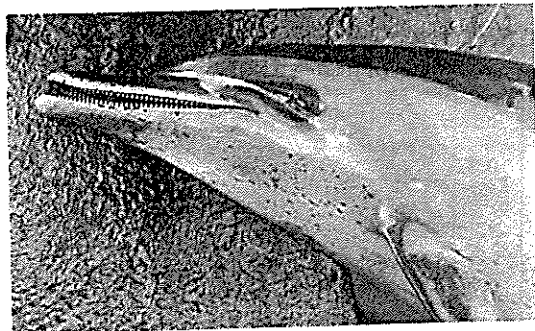
—マダライルカ—

[1] 捕獲状況

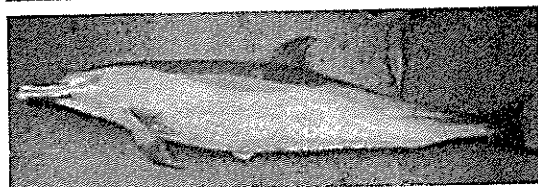
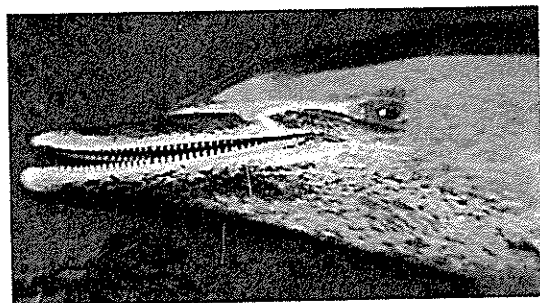
マダライルカは標本番号1, 4, 5そして7の4頭が捕獲された。標本番号1の個体は10月27日,  $05^{\circ}14'N$ ,  $131^{\circ}03'E$ , 表面水温  $30.5^{\circ}C$  において1群50頭の親仔を含む群から捕獲された。標本番号4のマダライル



第 4 図 標本番号 1 マダライルカ 190.5cm 雌



第 5 図 標本番号 5 マダライルカ 176.0cm 雌



第 6 図 標本番号 7 マダライルカ 152.0cm 雌

カは1月6日、02°59'N、149°24'Eにおいて体長185.0cmの雌を捕獲した(表面水温29.5°C)。この標本は1群30頭の群から捕獲されたが、発見時の種の判定はハシナイルカとしていた。11月7日には1群20頭の群から(04°27'N、149°54'E、表面水温29.3°C)体長175.0cmの雌を捕獲した(標本番号5)。同日、04°48'N、149°45'Eにおいて1群100頭という大きな群に出会い、その中から体長152.0cmという若い雌を捕獲した(標本番号7、表面水温29.4°C)。この100頭の群は、前述したように、ハシナイルカとマダライルカが一緒になって群を形成しており、その区別は目視観察時には出来なかった。

## 〔2〕 体 色

(A)雌——標本番号1の体色は第4図に示した如く、背部は黒に近い濃灰色であり、体側中央より体下面においては背部と区別しうる位明灰色である。体表面全体に斑点が認められ(胸鰭、背鰭そして尾鰭には存在しない)、互いの斑点は重なり合ってトタン状になり、体下面などでは遠くから見ると一様に灰色に見える位である。背部の白色斑点は比較的小さく数も少い。標本番号5(第5図)の個体は標本番号1の個体よりも体長が小さい故か、体色においては標本番号1と比較すると顕著な差が認められる。即ち、標本番号5の個体の背面の色は濃青灰色であり、標本番号1の個体のように灰色の色調が勝っていることはない。腹側部から体下面にかけては明るい青白灰色であり、これよりもより濃い背部の色を有する小斑点が散在するのが認められるが、極めてまばらである。背面における白灰色の小斑点は存在しない。

(B)雌——標本番号4の個体の体色は雌で述べた標本番号1の個体のそれと同一である。標本番号7の個体の体色は極めて特徴的である。即ち、背部は比較的濃い青灰色であり、斑点も認められず、美しくなめらかな印象をうける。他方、体側面下部と体下面は白灰色の地に濃青灰色の斑点が濃密に分布している。この斑点は胸鰭にも認められたが、背・尾鰭には認められなかった(第6図)。

粕谷等(1974)やPerrin(1975)が*Stenella attenuata*やSpotted dolphinで述べているように、体色が性別や発育段階で異なることを考えると、今回のこの

第3表 マダライルカの外部プロポーション測定値の比較

測定部位	Male		Female	Offshore* (Male)	Offshore* (Female)	Coastal* (M+F)	Hawaiian* (M+F)	Southwestern** (M+F)	Götō*** (Male)	Götō*** (Female)
全長(体長)(mm)	1520 (100.0)	1850 (100.0)	1827.5 (100.0)	1965 (100.0)	1860 (100.0)	2192.3 (100.0)	1939.8 (100.0)	1894.3 (100.0)	1934.2 (100.0)	2092 (100.0)
吻端—口	255 (16.8)	290 (15.7)	285 (15.6)	297 (15.1)	299 (16.1)	311 (14.1)	309 (15.9)	272 (14.3)	(16.1)	(15.7)
” 一口角	200 (13.2)	265 (14.3)	242.5 (13.3)	254 (12.9)	255 (13.7)	263 (11.9)	268 (13.8)	234 (12.3)	(13.7)	(13.5)
” 一耳	300 (19.7)	345 (18.7)	322.5 (17.6)	340 (17.3)	342 (18.4)				(18.9)	(18.2)
目—耳	45 (3.0)	55 (3.0)	37.5 (2.1)	53 (2.7)	49.5 (2.7)					
吻端—噴気孔	275 (18.1)	300 (16.2)	287.5 (15.7)	295 (15.0)	297 (16.0)	297 (13.5)	301 (15.5)	263 (13.8)	(15.6)	(15.3)
” 一胸鱗付根前縁	360 (23.7)	420 (22.7)	387.5 (21.2)	413 (21.0)	410 (22.0)	428 (19.5)	406 (20.9)	383 (20.2)	(21.2)	(20.2)
” 一背鱗先端	1090 (71.7)	—	1052.5 (57.6)	1129 (57.5)	1105 (59.4)	1154 (52.6)		1043 (55.0)	(44.4)	(43.0)
” 一臍	790 (52.0)	910 (49.2)	890 (48.7)	927 (47.2)	904 (48.6)	964.6 (43.9)		882 (46.5)	(44.2)	(43.6)
” 一生殖孔	1035 (68.1)	1240 (67.0)	1297.5 (71.0)	1301 (66.2)	1324 (71.2)				(63.8)	(69.4)
” 一肛門	1350 (88.8)	1400 (75.7)	1357.5 (74.3)	1479 (75.3)	1384 (74.4)				(71.6)	(73.6)
腋の下を通る胴囲り	755 (49.7)	810 (43.8)	772.5 (42.3)	814 (41.4)	794 (42.7)			827 (43.6)		
肛門における胴囲り	480 (31.6)	530 (28.7)	510 (27.9)	600 (30.5)	520 (28.0)					
胸鱗付根後縁—先端	155 (10.2)	190 (10.3)	172.5 (9.4)	166 (8.4)	162 (8.7)	152 (6.9)		181 (9.5)		
胸鱗最大幅	75 (4.9)	95 (5.1)	85 (4.7)	91 (4.6)	88 (4.7)				(4.8)	(5.2)
背鱗の高さ	140 (9.2)	160 (8.7)	157.5 (8.6)	(7.4)	(7.8)		166 (8.6)		(8.7)	(8.5)
尾鱗の幅	345 (22.7)	435 (23.5)	387.5 (21.2)	430 (21.9)	421 (22.6)			404 (21.3)	(21.6)	(20.8)

\* : Perrin (1975), \*\* : Perrin (1978), \*\*\* : Mizue et al. (1962), ( ) : 体長に対する百分率

第 4 表 マダライルカ頭骨の比較

測定部位	本報告 標本	Southwestern spotted dolphin (Perrin, 1978)	Eastern Pacific coastal spotted dolphin (Perrin, 1975)	Eastern Pacific offshore spotted dolphin (Perrin, 1975)	Hawaiian spotted dolphin (Perrin, 1975)	Götö (Mizue, <i>et al.</i> , 1962)
(1)	392.5	398.9	436.9	389.9	413.6	411.0
(2)	245.3	239.8	261.1	232.2	250.8	232.0
(3)	90.5	84.4	90.3	82.1	89.2	91.0
(4)	54.3	58.2	64.8	55.4	62.5	—
(5)	39.0	43.8	48.7	40.8	45.9	50.0
(6)	19.8	23.2	26.4	22.2	24.4	28.0
(7)	28.8	29.6	34.3	28.4	31.8	—
(8)	277.0	279.5	303.3	271.3	293.4	275.0
(9)	279.8	282.3	306.3	272.9	294.1	—
(10)	143.8	152.7	161.2	146.0	158.0	—
(11)	155.0	170.6	180.0	164.2	173.6	188.0
(12)	140.3	—	159.1	144.5	155.6	169.0
(13)	37.5	43.1	46.6	41.5	42.3	—
(14)	158.3	169.8	181.6	163.0	172.2	—
(15)	62.8	67.4	71.7	64.9	68.9	—
(16)	135.8	137.4	145.8	137.6	141.0	144.0
(19)	60.0	63.9	83.2	67.6	62.0	76.0
(20)	49.0	50.6	65.4	52.8	50.2	—
(27)	45.8	—	52.8	36.4	48.7	—
(28)	65.0	—	68.4	62.8	67.5	—
(32)	214.5	205.4	228.9	201.8	215.9	198.0
(37)	209.8	200.5	225.2	195.8	210.9	195.0
(38)	340.0	338.7	372.4	328.5	351.4	338.0
(39)	55.3	56.3	65.9	56.8	57.5	—
(40)	100.8	—	114.7	104.0	106.6	—
(A)	40—42 39—42	37—45 35—43	37—46 36—44	37—48 34—46	38—44 36—42	36—37 35—38
(B)	74—76	78—82	77—79	77—83	79	79—81

(A): 歯槽数, (B): 脊椎骨数

ような大きな個体間の相異もうなづけるところである。要約すると、北太平洋南西海域産のマダライルカの体色は、若齢（小型）個体においては、斑点が少く、背部は濃青灰色であり、腹側部の地色は淡灰色であって体側面において比較的明瞭にその体色の境界が認められる。一方、高齡（大型）個体では、斑点が多く、体全体に濃灰色がかかった、くすんだ色調となり、体下部の地色も暗灰色となり、体側面における上部と下部の体色の差も小さくなり、遠くから見ると体側面は一様に暗灰色に映るようになる。

雌雄別に各成長段階の個体の蓄積を待って、本種の体色の变化を体系づける必要があろう。体色は次に述べる体形と並んで遊泳中の個体の種の判別にとって極

めて有効な key となる形質であるので、その変化様式の解明は重要である。

## 〔3〕外部形態

Perrin (1975 '78) が報告している北太平洋東部・中部海域における spotted dolphin の 4 系統群、即ち、Offshore, Coastal, Hawaiian, そして Southwestern と水江等 (1962) による九州西方海域産 (Götö) のマダライルカの外部形態と今回得た雄 2 頭雌 2 頭の計測値とを比較した (第 3 表)。雌雄別、体長別 (1600mm を境として) に各部長を比較する必要があるが、今回のように各々のカテゴリーに属する標本数が少く、十分な比較検討は出来ないで、体長に対する各部長の割合を比較した。

雄と雌では逆の関係を示している。即ち、雌では、今回の標本を Offshore と比較すると、頭部が大きく、また臍より体前方の各部位の割合が大きい。しかしながら、尾部の各プロポーションには相異が認められない。腋の下を通る胴囲りや胸鱗、尾鱗も大きく背鱗も高い。一方雌では、臍より体前方における各々のプロポーションは小さく、腋の下における胴囲りも小さい。胸鱗は長い幅は狭く、背鱗は雄と同様に高いが、尾鱗の幅は狭い。

Southwestern と比較すると Southwestern の方が今回のものよりも全体的に小さいが、Hawaiian の値に近いことが判る。いづれにしても統計的に他の系統群の外部計測値と比較するには今回の標本数があまりにも少なすぎる。標本数の増加を待つのみである。

#### 〔4〕 頭骨の形態

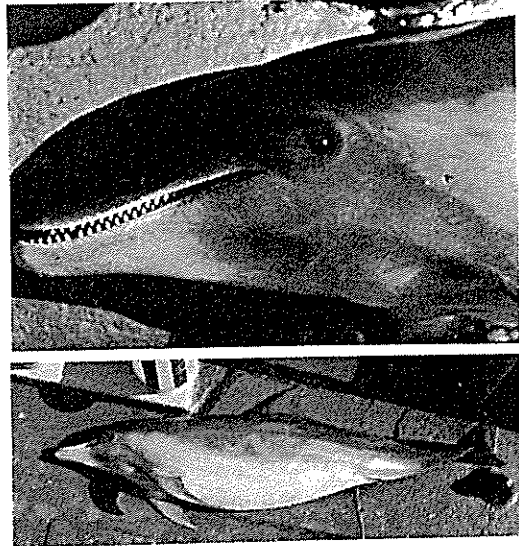
頭骨の形態を各系統群別に比較するために第4表に今回の測定値、Southwestern, Coastal, Offshore, Hawaiian, Götö の各々の主要な部分をまとめて示した。この表から、今回の測定値は Offshore の系統群の値に近いことが判る。しかしながら、若干のくいちがいが存在している、即ち、外鼻孔の幅と下顎骨窩の長さが今回の標本では最も小さな値を示しており、内鼻孔の幅は Offshore のものが最小値を示しており、今回の標本の値は Hawaiian 系群に近く、Coastal 系群よりも狭い。更に、今回の吻基底幅③は Coastal, Hawaiian, Götö の値に近く、Southwestern や Offshore のものよりも広い。側頭骨窩の長・短径は Southwestern と Hawaiian 系群に近く、Coastal, Offshore, Götö よりも短い。上下顎骨の歯線長は共に Southwestern, Offshore そして Hawaiian 系群に近く、Coastal よりも短かく Götö のものよりも長い。また、下顎骨長と高さにおいては Coastal 系群が大きな値を示し、他の系群の値は大差なく等しい。

以上のように、今回のマダライルカの頭骨の長さと同幅は Coastal や Hawaiian 系群よりも短かく、Offshore 系群に近い値を示している。また、Southwestern と Götö 系群の頭骨は今回の標本のものよりも頭骨の幅と吻の幅が広いといえよう。

#### 〔5〕 その他の形質

歯槽数と脊椎骨数を他の系統群の結果と比較したのが第4表の下端に示してある。今回得た標本の歯槽数 40~42/39~42 は他の全ての系統群の値 (36~48/34~46) の範囲内にある。一方、脊椎骨数は 74~76 個であり、他のいづれの系統群の値よりも小さい。

以上の諸項目から、北太平洋南西海域産マダライル



第7図 標本番号2 ハンドウイルカ 252.0cm 雌

カは体色によっては明瞭な判別は出来なかったが、外部形態によると Hawaiian 系統群に似ており、頭骨の形態からは Offshore 系統群に似ている。しかしながら、脊椎骨数は他のいづれの系統群よりも少ない。従って、この海域のマダライルカは独立した系統群の可能性が考えられる。

#### —ハンドウイルカ—

ハンドウイルカは11月3日ニューギニアの北側に位置する 01°00'S, 144°30'E において発見群番号④に相当する 2 群25頭の群の中から船に付いたところを突棒で捕獲した。

捕獲したハンドウイルカは体長252.0cmの雌であり、成熟していたが胎児は存在しなかった。体色は傷もなく美しい表皮をし、腹部の灰色部は広く明るい印象を与える。背部の色は青灰色に近く薄い色である。目をとり囲んだ黒帯は吻基部の先端に向っている。目から胸鱗付根に向ってぼんやりした暗帯が1本走っている(第9図)。

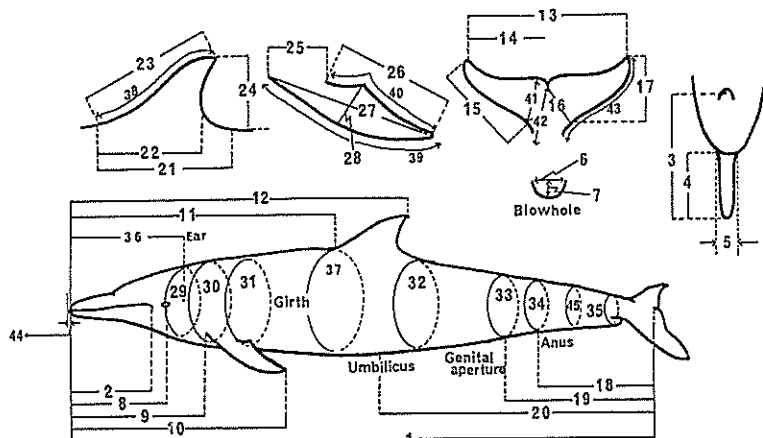
外部プロポーション測定結果と頭骨等の計測値を付表1, 2に示した。歯槽数は24~24/21~21であり、脊椎骨数は60個であった。水江・吉田(1960, '61)の九州西方海域産のハンドウイルカの歯槽数と脊椎骨数は20~26/18~24そして62~64個と報告している。また西脇(1965)は歯数を20~25/20~25, そして脊椎骨を65個と報告している。歯槽数では水江・吉田(1960, '61)と西脇(1965)の値の範囲内にあるが、脊椎骨数



は彼等の報告しているいづれの個体の値よりも少ない。更に、ミナミバンドウイルカやコウカイバンドウイルカの脊椎骨数は62, 61個と報告されており(西脇, 1965), これらと比較しても今回の値は小さい。

外部, 骨格等の計測結果を既報資料と比較し検討しなければならぬが, 今回の1頭のみの値を比較して

云々するにはあまりにも危険であるので, ここでは資料を示すに止める。ただ, 脊椎骨数から見る限りにおいて, 今回のバンドウイルカは日本近海やアメリカ西岸に分布するバンドウイルカとは全く別の系統群かあるいは別種の可能性が考えられる。

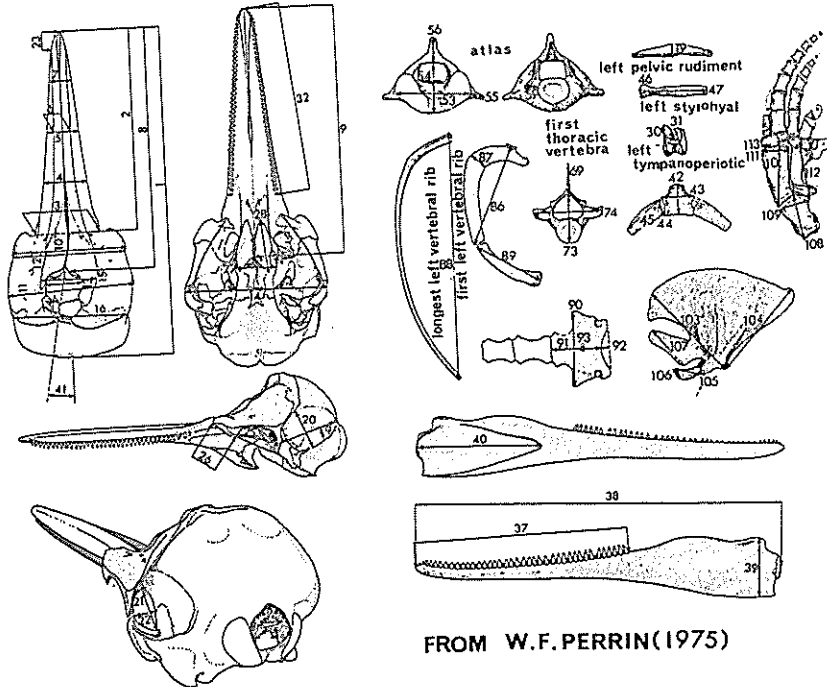


附図1 外部測定部位

付表1 ハンドウイルカ, マダライルカおよびハシナギイルカの外部プロポーション測定結果

鯨種 標本 番号 測定 部位	ハンドウ イルカ		マダライルカ			ハシナギイルカ	
	[ No. 2 ]	[ No. 1 ]	[ No. 4 ]	[ No. 5 ]	[ No. 7 ]	[ No. 3 ]	[ No. 6 ]
	cm ( % )	cm ( % )	cm ( % )	cm ( % )	cm ( % )	cm ( % )	cm ( % )
1:	252.0(100.0)	190.5(100.0)	185.0(100.0)	175.0(100.0)	152.0(100.0)	186.0(100.0)	157.0(100.0)
2:	25.0( 9.9)	24.0( 12.3)	26.5( 14.3)	24.5( 14.0)	20.0( 13.2)	29.0( 15.6)	26.5( 16.9)
3:	34.5( 13.7)	28.5( 14.6)	30.0( 16.2)	29.0( 16.6)	27.5( 18.1)	32.5( 17.5)	31.0( 19.8)
4:	10.0( 4.0)	11.3( 5.8)	13.5( 7.3)	11.0( 6.3)	10.5( 6.9)	17.0( 9.1)	14.5( 9.2)
5:	7.5( 3.0)	4.6( 2.4)	5.5( 3.0)	5.0( 2.9)	5.0( 3.3)	5.5( 3.0)	5.5( 3.5)
6:	2.5( 1.0)	2.3( 1.2)	2.2( 1.2)	2.2( 1.3)	2.1( 1.4)	2.0( 1.1)	2.2( 1.4)
7:	1.4( 0.6)	0.9( 0.5)	0.9( 0.5)	1.1( 0.6)	1.1( 0.7)	0.8( 0.4)	0.9( 0.6)
8:	30.5( 12.1)	27.5( 14.1)	29.0( 15.7)	29.5( 16.9)	25.5( 16.8)	33.0( 17.7)	30.0( 19.1)
9:	51.0( 20.2)	38.5( 19.7)	42.0( 22.7)	39.0( 22.3)	36.0( 23.7)	45.5( 24.5)	41.5( 26.4)
10:	85.5( 33.9)	59.0( 30.3)	64.0( 34.6)	59.0( 33.7)	50.0( 32.9)	70.0( 37.6)	66.0( 42.0)
11:	—( —)	85.0( 43.6)	83.5( 45.1)	82.0( 46.9)	74.0( 48.7)	82.0( 44.1)	71.5( 45.5)
12:	—( —)	107.5( 55.1)	109.0( 58.9)	103.0( 58.9)	—( —)	104.5( 56.2)	91.0( 58.0)
13:	62.5( 24.8)	39.5( 20.3)	43.5( 23.5)	38.0( 21.7)	34.5( 22.7)	41.0( 22.0)	32.0( 20.4)
14:	32.5( 12.9)	19.5( 10.0)	21.0( 11.4)	18.5( 10.6)	17.0( 11.2)	20.0( 10.8)	16.0( 10.2)
15:	41.5( 16.5)	26.0( 13.3)	28.0( 15.1)	25.0( 14.3)	24.0( 15.8)	25.5( 13.7)	22.0( 14.0)
16:	17.0( 6.8)	10.5( 5.4)	10.0( 5.4)	10.0( 5.7)	8.5( 5.6)	10.0( 5.4)	9.5( 6.1)
17:	19.0( 7.5)	19.5( 10.0)	17.5( 9.5)	18.0( 10.3)	15.0( 9.9)	16.0( 8.6)	15.0( 9.6)
18:	70.5( 28.0)	50.5( 25.8)	45.0( 24.3)	43.5( 24.9)	38.5( 25.3)	50.5( 27.2)	44.0( 28.0)
19:	77.5( 30.8)	56.5( 29.0)	61.0( 33.0)	49.5( 28.3)	48.5( 31.9)	68.0( 36.6)	54.0( 34.4)
20:	134.0( 53.2)	101.0( 51.8)	94.0( 50.8)	86.5( 49.4)	73.0( 48.0)	97.5( 52.4)	78.0( 49.7)

21:	43.0( 17.1)	—( —)	29.0( 15.7)	24.5( 14.0)	24.0( 15.8)	33.0( 17.7)	26.0( 16.6)
22:	34.5( 13.7)	22.0( 11.3)	22.5( 12.2)	23.0( 13.1)	21.5( 14.1)	22.0( 11.8)	20.0( 12.7)
23:	42.0( 16.7)	28.0( 14.4)	26.5( 14.3)	26.5( 15.1)	23.5( 15.5)	25.0( 13.4)	23.0( 14.7)
24:	23.0( 9.1)	15.5( 8.0)	16.0( 8.7)	16.0( 9.1)	14.0( 9.2)	16.5( 8.9)	14.5( 9.2)
25:	14.5( 5.8)	9.5( 4.9)	8.5( 4.6)	9.5( 5.4)	8.5( 5.6)	11.0( 5.9)	10.5( 6.7)
26:	28.5( 11.3)	16.5( 8.5)	19.0( 10.3)	18.0( 10.3)	15.5( 10.2)	18.5( 10.0)	18.5( 11.8)
27:	40.0( 15.9)	23.0( 11.8)	25.5( 13.8)	23.5( 13.4)	21.5( 14.1)	27.0( 14.5)	26.0( 16.6)
28:	15.0( 6.0)	8.0( 4.1)	9.5( 5.1)	9.0( 5.1)	7.5( 4.9)	9.0( 4.8)	8.5( 5.4)
29:	88.0( 34.9)	53.0( 27.2)	62.0( 33.5)	56.0( 32.0)	53.5( 35.2)	55.5( 29.8)	52.0( 33.1)
30:	112.0( 44.4)	66.0( 33.5)	75.0( 40.5)	69.5( 39.7)	70.5( 46.4)	66.0( 35.5)	62.5( 39.8)
31:	126.0( 50.0)	77.0( 39.5)	81.0( 43.8)	77.5( 44.3)	75.5( 49.7)	79.0( 42.5)	70.0( 44.6)
32:	120.0( 47.6)	75.5( 38.7)	82.0( 44.3)	73.0( 41.7)	66.0( 43.4)	73.0( 39.2)	62.0( 39.5)
33:	81.0( 32.1)	56.0( 28.7)	70.0( 37.8)	55.5( 31.7)	59.0( 38.8)	65.5( 35.2)	55.0( 35.0)
34:	78.0( 31.0)	50.0( 25.6)	53.0( 28.7)	52.0( 29.7)	48.0( 31.6)	53.5( 28.8)	42.5( 27.1)
35:	27.0( 10.7)	17.5( 9.0)	18.0( 9.7)	15.0( 8.6)	16.0( 10.5)	17.0( 9.1)	16.0( 10.2)
36:	—( —)	32.0( 16.4)	34.5( 18.7)	32.5( 18.6)	30.0( 19.7)	37.0( 19.9)	34.0( 21.7)
37:	148.0( 58.7)	82.0( 42.1)	90.0( 48.7)	89.0( 50.9)	84.5( 55.6)	87.0( 46.8)	72.0( 45.9)
38:	—( —)	—( —)	29.5( 16.0)	29.0( 16.6)	26.0( 17.1)	26.0( 14.0)	25.0( 15.9)
39:	43.0( 17.1)	25.0( 12.8)	28.5( 15.4)	26.5( 15.1)	24.5( 16.1)	30.5( 16.4)	28.5( 18.2)
40:	29.5( 11.7)	—( —)	19.5( 10.5)	19.5( 11.1)	16.5( 10.9)	20.0( 10.8)	24.0( 15.3)
41:	19.5( 7.7)	11.3( 5.8)	11.0( 6.0)	11.0( 6.3)	9.0( 5.9)	11.0( 5.9)	10.0( 6.4)
42:	19.0( 7.5)	—( —)	12.0( 6.5)	11.5( 6.6)	11.0( 7.2)	13.0( 7.0)	11.5( 7.3)
43:	—( —)	28.0( 14.4)	29.0( 15.7)	28.0( 16.0)	26.0( 17.1)	27.0( 14.5)	24.0( 15.3)
44:	1.5( 0.6)	0.7( 0.4)	0.8( 0.4)	0.7( 0.4)	0.6( 0.4)	0.3( 0.2)	0.4( 0.3)
45:	—( —)	—( —)	46.0( 24.9)	40.0( 22.9)	39.5( 26.0)	—( —)	37.0( 23.6)



FROM W.F.PERRIN(1975)

附圖2 骨 格 測 定 部 位

付表2 骨格測定結果表

測定 部位	ハンナガ イルカ		マダライルカ				ハンドウ イルカ	測定 部位	ハンナガ イルカ		マダライルカ				ハンドウ イルカ
	No.3	No.6	No.1	No.4	No.5	No.7	No.2		No.3	No.6	No.1	No.4	No.5	No.7	No.2
1	407	390	385	423	395	367	472	42	29	—	35	32	27	24	44
2	264	247	250	264	245	222	261	43	36	—	29	34	33	27	64
3	78	55	95	93	94	80	134	44	19	15	23	18	14	13	24
4	52	48	53	55	58	51	93	45	43	46	57	49	46	41	80
5	45	41	37	38	43	38	76	46	13	12	12	11	7	9	20
6	18	19	23	19	20	17	31	47	65	58	74	55	66	59	96
7	33	29	27	29	31	28	52	53	69	57	75	51	75	68	100
8	304	288	277	300	275	256	314	54	46	43	45	47	47	42	69
9	304	283	285	303	276	255	315	55	20	20	26	22	19	19	29
10	142	128	139	155	147	134	215	56	42	30	43	27	29	30	58
11	153	143	156	174	140	150	250	59	20	17	20	20	20	21	30
12	136	118	143	148	141	129	207	69	36	23	26	16	23	28	44
13	39	36	38	41	38	33	49	73	39	38	45	43	45	39	61
14	153	137	153	175	156	149	245	74	72	68	68	66	74	67	121
15	64	59	66	71	65	49	88	86	107	97	108	110	104	92	172
16	135	133	141	149	123	130	188	87	18	18	17	18	17	17	31
19	48	51	56	72	59	53	75	88	240	216	248	230	217	191	350
20	33	33	45	53	53	45	68	89	63	58	74	69	70	68	115
21	30	32	32	39	36	32	57	90	71	64	84	82	81	61	101
22	20	16	17	22	22	22	47	91	53	46	57	54	50	46	89
23	30	19	17	30	22	15	15	92	9	7	7	8	10	7	10
24	18	21	13	17	15	13	20	93	0	0	4	0	7	5	0
25	44	41	47	49	48	47	63	103	106	85	109	112	107	85	183
26	41	36	35	37	33	35	49	104	100	73	108	106	101	76	153
27	44	38	44	49	47	43	67	105	27	23	28	30	24	20	55
28	52	51	58	79	66	57	74	106	12	16	10	11	13	12	25
30	28	27	28	29	29	28	35	107	42	35	43	44	37	33	53
31	26	25	28	28	26	27	31	108	42	30	42	44	44	25	70
32	230	221	215	240	214	189	227	109	32	30	31	32	33	27	56
37	226	217	218	230	212	179	214	110	68	52	61	52	62	51	105
38	353	335	345	370	341	304	410	111	32	31	27	30	30	26	50
39	53	50	55	59	56	51	90	112	52	49	54	44	44	40	75
40	88	83	94	109	110	90	130	119	72	42	—	69	—	38	76

## せ た し あ

先号の鯨研通信(第330号)に遠洋水産研究所の正木さんと北海道大学水産学部の加藤君連名の目視調査の報告が出ているが、御二人の現在の所属について註がつけてある。これについて2, 3の方から問い合わせがあったので、ここで若干説明をしよう。

正木さんは御自身の希望により南西海区水産研究所に転任されたものと理解している。加藤君については、昨漁期日本船団協力の下に、国際鯨調査10年計画として、南阿のベスト博士を隊長として、各国の研究者が日本船に乗船して、ミンク鯨の目視観察とマーキングを実施することとなったため、鯨研もこれに協力する意味で、当時北大水産学部の大学院生で鰐脚類の研究をしていた加藤君に依頼して、この調査に参加して貰ったのである。

この調査は第18利丸がフリーマントルを出港後南氷洋第IV区で行なったものであるが、同船が日本を出てからフリーマントルに着くまでの間は、遠洋水産研究所が独自の調査を行なったもので、これが先号の御二人の論文である(第1図参照)。

加藤君はしたがってフリーマントル後もこの船に乗船して調査を行ない、さらにその後は母船に移乗して、最後まで残って母船と共に5月に帰国した。帰国後同人の希望もあり、彼は北大水産学部の大学院を途中で辞め、9月1日附で正式に鯨研の所員に採用した。したがって鯨研としては彼に学位をとって貰はないと困るのである。いずれにしても鯨研のニューフェース、よろしくお願ひします。

この間の日曜日にテレビで競馬を観ていて変なことに気がついた。競走馬はなにしろサラブレッドであるから血統がやかましい。ところが勝った馬の血統を説明するのに、お父さんはどう、お母さんはどうと説明していた。考えてみるとこのような場合に、日本語では、適当な畜生言葉がないのである。馬や牛或いは犬のような畜生であっても、畜生言葉がないから、人間言葉を使わざるを得ないのであろう。外国では、このような場合に立派な畜生言葉がある。日本語のお母さんは Dam であり、お父さんは Sire である。さすがに狩猟民族の子孫であるから、この点は立派である。ただ日本には牡と牝という言葉がある。これは立派な畜生言葉で、馬や牛では厳格に使っているようであるが、外国では人間と同じ Male であったり Female であったり、或は単に記号の♂や♀であったりする。

なぜこんなことを言い出したか、それはここ数年来変な言葉がはやり出しているからである。鯨又はイルカのことを、海の中の、人間に最も近い親戚 closest relatives of man in the sea という言葉を使う人がいるからである。なるほど海の中には霊長類はいないし、哺乳類はみんな親戚であるから、間違いだとは言えないかも知れないが、やはり人間と他の哺乳類との間には、はっきりした線を引いて置くのが必要であると思う。その意味で、私自身あまり好でない畜生という言葉を取って使ったのである。上記の馬の場合は、牝親又は牡親として貰いたいのである。これなら畜生言葉である。人間言葉と畜生言葉をはっきり使い分けておかないと、考え方そのものがこんがらかって来るように思う。人間の倫理か鯨の倫理かわけがわからなくなってしまう惧れがある。

黒潮資料館発行のくろしお文化第9号が発行された。相変らず編者であり且つ大部分の原稿の筆者である矢代さんの面目が躍如としている。くろしお文化又の名矢代文化と言ってもよいであろう。第9号は先づ表紙がよい。潜水器のルーツ泳気鐘である。この説明は本朝潜水器草創伝に精しい。

われわれと同じ年代の人には、八坂丸金貨引揚げは、若き日の一大快挙として、まだ記憶に残っているが、田村孝吉さんがその模様を丹念に記録しておられる。その他ふかし療法事始めもあり本号はいわば潜水特集号の感がある。

この外面白くて有益な記事が盛だくさんであるが、私にとって特に興味があるのが二つある。その一つはグラビヤ桑港廻々(2)の此の蟹一匹500円也である。私もワシントンに行った時、近くのチェサピーク湾で、このような蟹を、竹の棒で叩きながら殻を潰して、何匹か平らげたことがある。

その二つはラスベガスである。但し私は行ったことはない。終戦直後占領軍のお供で、日本各地を廻ったことがある。その時専用に使った、鉄道の客車に Las Vegas と書いてあったのである。いい思い出ではない。

第9号の34ページに館報取次のお知らせとして、鯨類研究所(月島)とあり、御希望の方はどうぞお申し込み下さい。取り次ぎます。誌代500円、干150円、あと払い。いずれも郵券代用可である(大村)。